Estimation of Gamma-ray Emission from Martian Satellites and Background from Mars and Spacecraft

火星衛星からのガンマ線放出と火星及び探査機からのバックグラウ

ンド評価

Masayuki Naito¹, Junya Ishii¹, Kouhei Yoshida¹, Daisuke Aoki¹, Hiroshi Nagaoka², Eido Shibamura², Nobuyuki Hasebe^{1, 2}

¹School of Advanced Science and Engineering, Waseda Univ. 3-4-1 Okubo, Shinjuku, Tokyo 169-8555.

2Research Institute for Science and Engineering, Waseda Univ. 3-4-1 Okubo, Shinjuku, Tokyo 169-8555.

ABSTRACT

Japanese sample return mission to Martian satellites is now under consideration to study the origin of Martian satellites. Gamma-ray and Neutron Spectrometer (GNS) is one candidate of mission payloads. The GNS will give constraints on the origin of Martian satellites by determining elemental composition from spacecraft orbit. In this work, gamma-rays from Martian satellites, Mars and spacecraft are calculated by numerical simulation to estimate the constraints on the origin of Martian satellites by gamma-ray observation. The elemental composition of Martian satellites are assumed as that of chondrites and Martian meteorites. The former represents the capture origin while the latter represents giant impact origin. The amount of fuel loaded on the spacecraft are varied in the range of 0-3,000 kg. The effects of background from Mars and spacecraft are discussed.

火星衛星からのガンマ線放出と火星及び 探査機からのバックグラウンド評価

内藤 雅之¹,石井 隼也¹,吉田 康平¹,青木大輔¹, 長岡 央²,柴村 英道²,長谷部 信行² ¹早稲田大学先進理工学研究科 ²早稲田大学理工学術院総合研究所

Outline

- Introduction
 - The origin of Martian moon
 - -Giant impact origin & captured asteroid origin-
 - Motivation

Can gamma-ray distinguish the origin?

Simulation methods

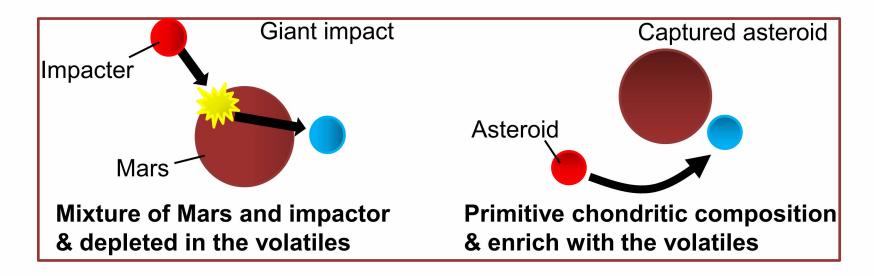
Geometry setting and sample composition

Results & Discussion

Gamma-rays from Phobos, Mars and spacecraft

Mars Moon eXplotation (MMX)

- 火星衛星「フォボス」「ダイモス」は未だ十分な探査が行われておらず、その起源は不明瞭である。
 - 巨大衝突説と捕獲説が起源として有力視されている。

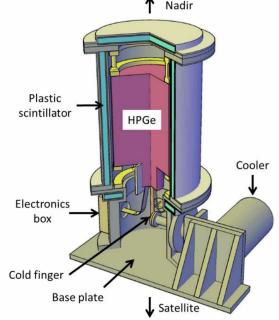


現在日本では火星衛星起源の解明を目的としたサンプルリターン計画 「Mars Moon eXploration (MMX)」が計画されている。

GNS

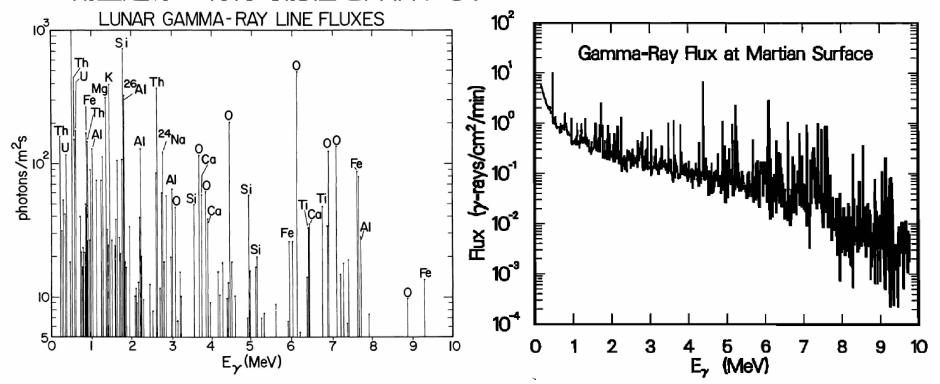
- ガンマ線・中性子分光計(GNS)は、周回軌道から天体の元素組成を決定することで衛星起源に制約を与えることを目的とした分析器であり、搭載機器の候補の一つとして提案されている。
 - GNSの観測対象となる元素はH, AI, Si, S, Ca, Fe, K, Thなどである。
 - これまでに火星衛星の観測を元素組成の観点から行った例はなく、 観測されれば世界初の試みとなる。 ↑ Nadir
- ガンマ線と中性子は互いに相補的な 関係であり、これらの観測は出来る 限り同時に行うことが望ましい。

Schematic drawing of Gammaray Spectrometer (GS).



Motivation

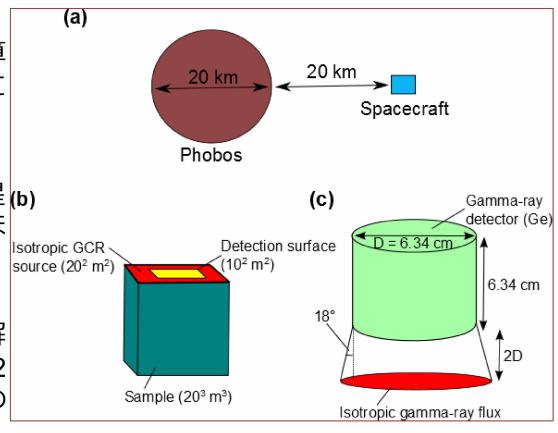
将来のガンマ線・中性子観測に向け、それらの発生、観測及びバック グラウンドの計算は必須である。本研究ではガンマ線分光による火星 衛星起源の制約可能性を評価する。



Gamma-ray fluxes from the Moon and Mars simulated by previous studies. (Reedy, 1978; Masarik and Reedy, 1996)

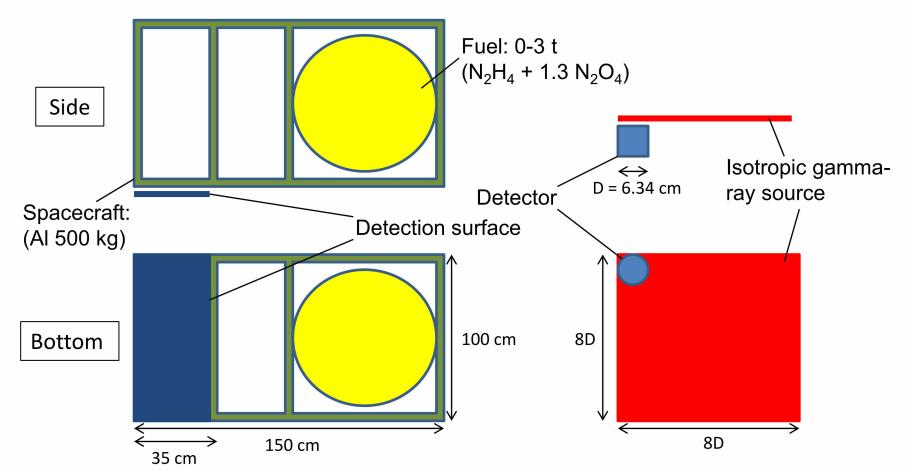
Geometry - Phobos -

- 銀河宇宙線(GCR)、ガンマ線、中性子の輸送と発生はモンテカルロシミュレーションコードPHITS (Sato et al., 2013)とINCL核相互作用モデル (Boudard et al., 2013)を用いて行った。
- 時間の短縮のため、計算 は発生と検出の2段階に 分けて行った。
- (a)の仮定のもとでは火星 (b) とフォボスの立体角はほ ぼ1:1である。
- 検出器のエネルギー分解 能 と し て 、 1.332 MeV(60Co) で 3 keV の FWHMを仮定した。



Geometry - S/C Background -

探査機と燃料から発生するバックグラウンドも同様に計算を行った。燃料は0-3,000 kgの範囲で量を変化させた。

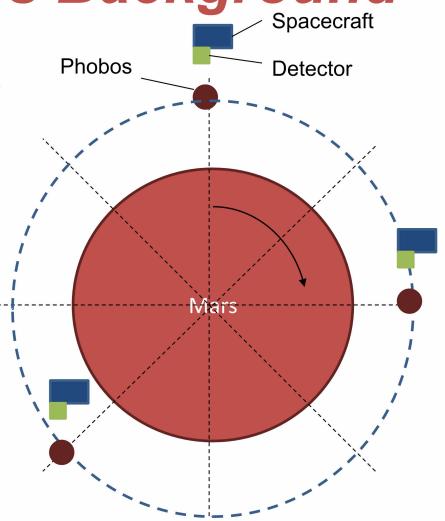


Geometry - Mars Background -

火星からのバックグラウンドは、 火星とフォボスの位置関係を変 化させて計算した。

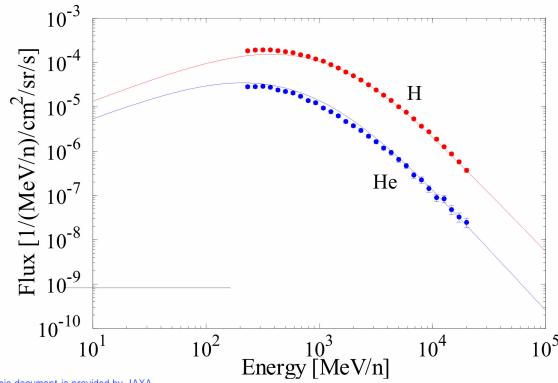
火星の立体角は最大でフォボス と同じとした。

火星組成はShergottyと仮定した。



Projectiles

- 入射の統計は4 × 10⁶で、約0.5秒間に降り注ぐGCRの数に相当する。



Energy spectra of GCR particles in solar minimum phase. Plots represent BESS observation data.

This document is provided by JAXA.

Sample

• 試料の元素組成として、いくつかの火星隕石とコンドライトの平均組成を用いた。火星組成が巨大衝突説、コンドライト組成が捕獲説を仮定するものである。

仮定した火星隕石組成とコンドライト組成の平均値(wt%) (NASA, 2015; Anders and Grevesse, 1989)

	Н	С	Mg	Al	Si	S	Ca	Fe	0	Others
CI chondrite	2.02	3.45	9.53	0.869	10.7	5.26	0.928	18.5	46.4	1.84
Shergotty			9.24	3.29	21.7	0.170	5.35	15.0	41.4	3.40
Nakhla			5.86	2.01	22.9	0.0700	9.33	15.2	41.0	3.63

• SiとCaの存在量に大きな差があるため、組成を切り分けるための指標としてSi/FeとCa/Feを以降では使用する。

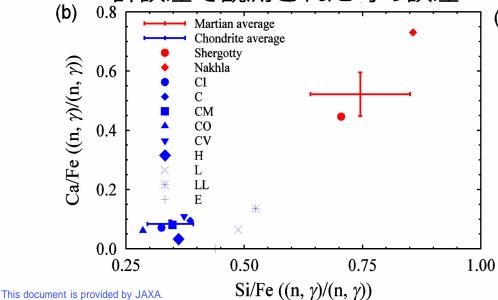
Detection

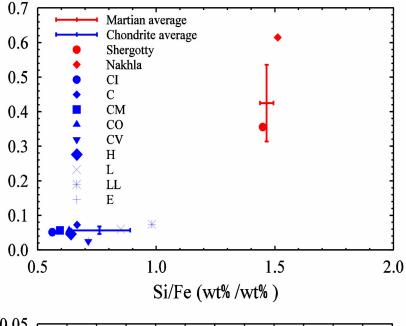
火星組成ではSi/FeとCa/Feが高い値を 示し、コンドライト組成では低い値を しめした。 エラーバーはそれぞれ以下を示す。

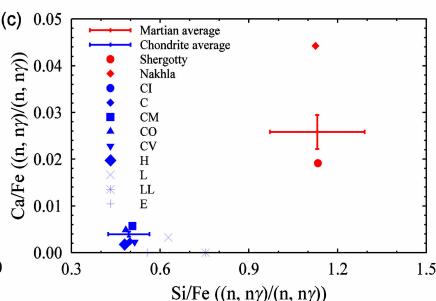
(a)

- エラーバーはそれぞれ以下を示す。
 - (a): 平均値とその標準偏差
 - (b), (c): 平均値とSi, Ca, Feが10%の統

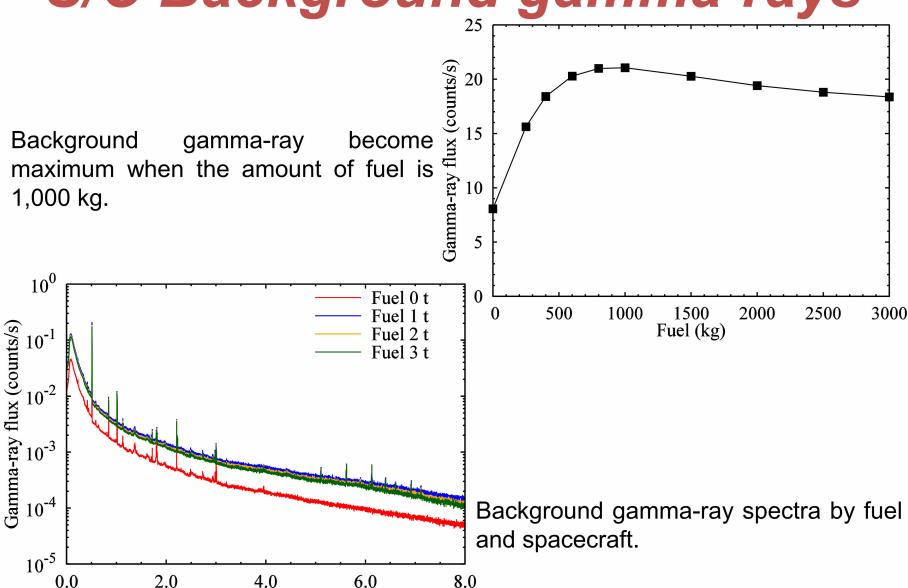
計誤差で観測された時の誤差







S/C Background gamma-rays

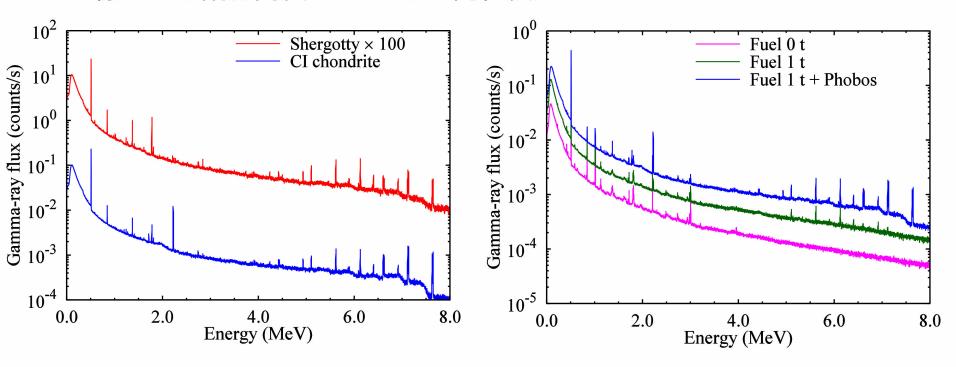


Energy (MeV)

This document is provided by JAXA.

Gamma-ray from Phobos

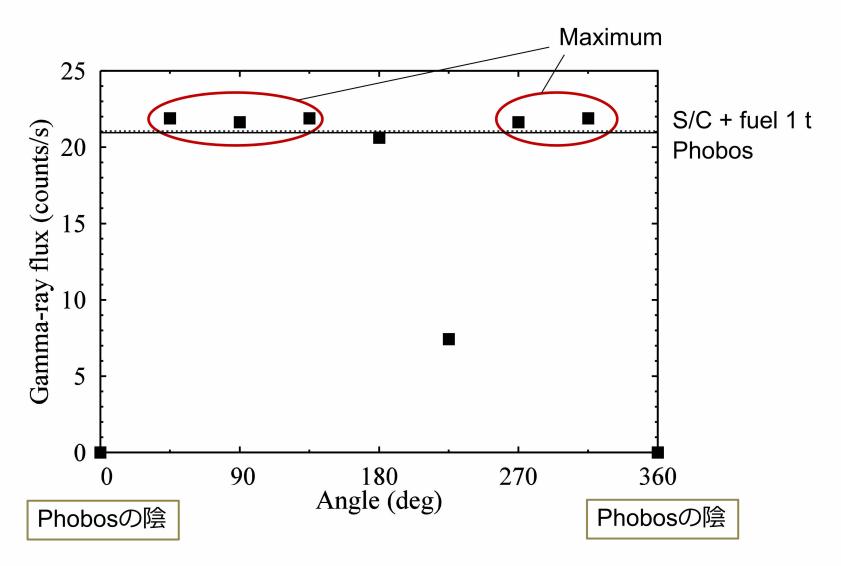
• フォボスから発生するガンマ線と探査機と燃料から発生するガンマ線の量は観測高度20kmでほぼ同程度だった



Gamma-ray spectra emitted by Phobos.

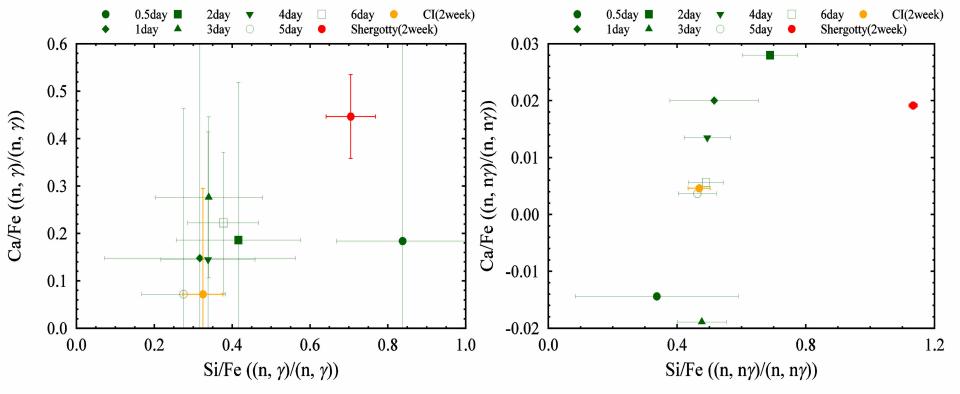
Gamma-ray spectra emitted from Phobo + gamma-ray spectra emitted from spacecraft.

Gamma-ray from Mars



Background subtraction

- フォボス、火星、探査機から発生するガンマ線を検出器へ同時に入 射させ、その後火星、探査機からのガンマ線のみを入射した結果を 差し引いた。
 - フォボスをCIコンドライト組成、火星をShergotty組成と仮定



Conclusion

- ・ 火星衛星のガンマ線・中性子観測に向け、衛星からのガンマ線と火星・探査機からのバックグラウンドガンマ線の数値シミュレーションを行った。
- Si/Feを用いることで、ガンマ線観測で火星組成とコンドライト組成を切り分けることが可能。
 - 観測高度20 kmの仮定のもとで、約2日間の観測時間があればバックグラウンドを差し引いても組成をわけることができる。

